

経営比較分析表（平成28年度決算）

香川県 坂出市

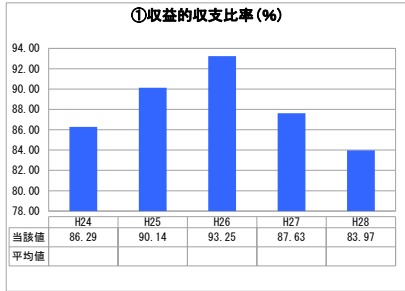
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	24.35	93.82	2,808

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
54,222	92.49	586.25
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
13,161	3.10	4,245.48

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



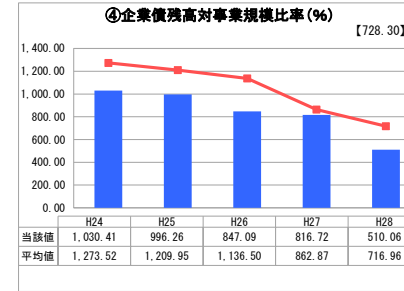
「単年度の収支」



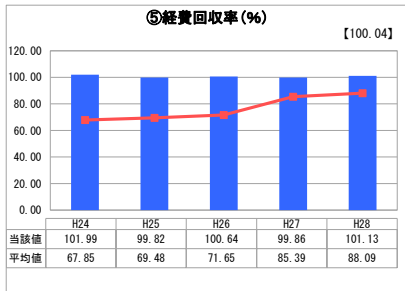
「累積欠損」



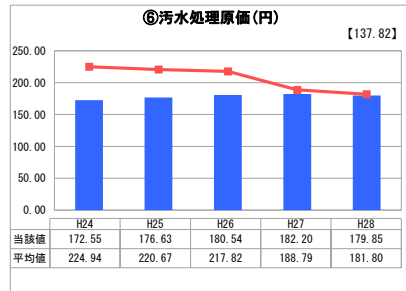
「支払能力」



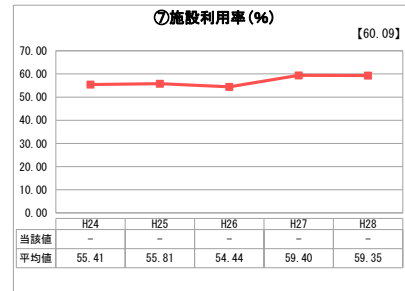
「債務残高」



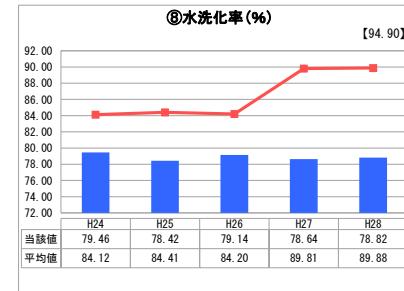
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

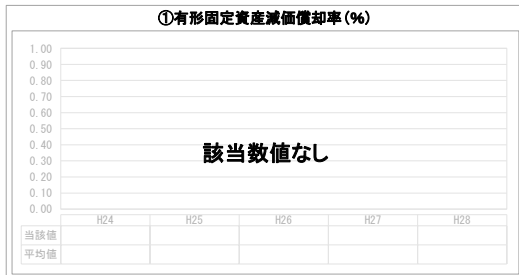


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

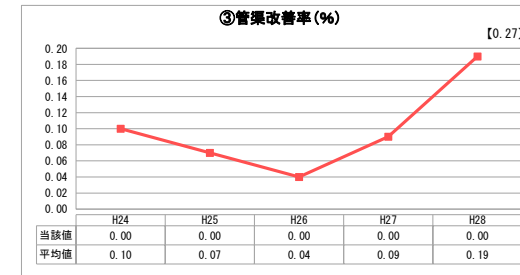
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

昭和52年に下水道事業に着手し、昭和60年から供用開始した。過去においては、瀬戸大橋の架橋や四国横断自動車道建設、鉄道高架および坂出駅周辺整備事業等の大型プロジェクトに取り組んだことにより、汚水事業に対する投資を抑えたため、汚水事業の整備が遅れることとなった。

一般会計からの繰入についても大型事業の影響で一時期、ほぼ基準内繰入のみとなったため資金不足が生じ累積赤字が膨らんだ。このため、国、県から指導を受け、下水道事業経営健全化計画を作成し、平成27年度をもって累積赤字を解消した。平成26年度をピークに収益的収支比率が徐々に増加しているのはそのためである。なお、平成27年度以降においては、地方債元利償還金額が対前年比で増加したことから収益的収支比率は減少している。

企業債残高対事業規模比率については類似団体より下回っている。平成14年が企業債残高のピークであり残高についてはその後、健全化計画により、投資を抑えたため徐々に下がってきている。経費回収率は100%近くで推移しており、概ね良好な状態であり、汚水処理原価については約57%であるため、今後もその向上に取り組む必要がある。

2. 老朽化の状況について

昭和53年度よりコンクリート管および塩ビニール管による管渠整備を開始し、平成28年度末現在の管渠整備延長は約82.4kmとなっている。現在のところ法定耐用年数を経過していないため管渠改築等の施工は実施していない。現在、ストックマネジメント計画を策定中である。

全体総括

経営健全化計画により平成27年度累積赤字を解消したが、平成32年度を目処に策定を予定している経営戦略の中で、繰入金に頼ることなく一層経営の健全化を図っていく。

今後は、建設事業においては、幹線整備から面整備へと変わっていくことにより、有収水量の伸びや使用料の増が期待できる。

限られた事業費の中、地元要望等を勘案し、投資効果の高いところから重点的に事業を実施する予定である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。